

校内研究授業について

遺愛では毎年、先生方の授業研究の場として教員全員参加で校内研修会を開いています。今年は10月26日の午後で開催しました。毎回2教科が担当しますが、今年は体育と理科で担当することになりました。



体育は下元先生で、中学3年生と創作ダンスにチャレンジしました。「希望」というテーマで、12~13名の4グループに分けて、授業時数として10校時分を充て準備を進めました。生徒自らが曲を選び、その曲のリズムや音楽の特徴をとらえ、動きやフォーメーションなどを工夫し、協力しながら創作しました。発表の場では本当に楽しそうに生徒達はパフォーマンスしていました。講評も先生が一方向的にするのではなく、グループ同士で良かった点を指摘し合い、最後に下元先生が生徒の意欲をさらにかきたてるような講評で締めました。

理科は生物の浅野先生が、高校2年生の特進コース生物選択者対象に、晩秋の東北・北海道に舞う『ユキムシ(トノネオウタムシ)の生活』について授業をしました。教科書には取り上げられていないユキムシですが、既に勉強している教科書の「生殖と発生」分野と関連づけながら、復習しながら授業を進めていました。研究授業というと特別な授業で教科書と離れて展開しがちですが、教科書や大学受験も意識しながらのものでした。しかし特に重点をおいていたのは、「なぜそうなるのか?」という疑問を生徒にもたせることでした。学問の始まりは素朴な疑問から始まります。ふだんはどうしても入試で点数をとるための授業になりがちですが、それも意識しつつ、学問の本質に迫ろうという野心的な研究授業になっていました。他の教科の先生方にとっても、とても刺激になる授業でした。



2011年10月27日